

電響社グループ

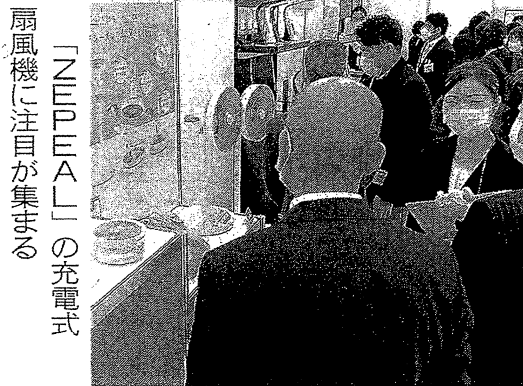
新商品商談会を開催

アウトドア商品など充実

電響社グループの社は10、11日の2日間、春・夏向けの新商品を提案する商談会「電響社グループ2022ニューライフ商談会」を東京都内で開催している。アウトドア関連商品の拡充など、新型コロナウイルス禍を受けて変化する需要を受けた商品構成が目立っている。

コロナ禍を受けた展示目立つ

商談会は、大阪に本社を置く電響社と大和無線電器(京都市右京区、坂本賀津也社長)、梶原産業(大阪府東大阪市、池田克也社長)のグループ3社による共催だ。家電や生活雑貨などグループの特色を組み合わせた商品構成を強みに、家電量販店のバイヤーなどに提案している。今回は120社が商品を表示



「ZEPPEAL」の充電式扇風機に注目が集まる



防災用品の関心も高い(写真は「テトラサーバー」)



初出展の輝楽は、アウトドアや防災などで使える各種テントを提案

売りたい考えた。約530名と軽量の衣類スチーマーも開発。「スチーマーの温度を『高温』と『中温』で変えられるのはほかにはない」(販売推進部商品企画開発チーム・古市和雅係長)とし、軽さと合わせて訴求。来年4月に発売予定だ。アウトドアや除菌などは、もともと活発化していた需要だったが、いざいざコロナ禍で弾みがついたものだ。充電式扇風機や歯ブラシ除菌器、衣類スチーマーは電響社にとつて「初めて製品化するもの」(古市係長)と「SDGs」も合わせた企画展示としても「フェー「感染対策」「フェーズフリー」「ポディメ

た動きと言える。グループの展示商品でも、そうした傾向は出ている。大和無線は「ポストコロナにおけるサステイナブルLife」をコンセプトにした「HEROS(ヒーローズ)」というコーナーを今回、大きく展開した。企業用途を意識した提案で、例えば量販店の法人営業部などに訴求することを狙ったものだ。「除菌と防災がテーマ」(販売推進部マーケティング&ピルドアップチーム・櫻井敦人氏)とし、空気清浄機や段ボール製ベッド、2Lの水6本分を入れられる「テトラサーバー」という防災グッズなどを展示している。家電と生活雑貨を組み合わせた企画展示として「SDGs」も合わせた企画展示として「フェー「感染対策」「フェーズフリー」「ポディメ

イク」「トラベル」を展開。社会的な傾向に加え、コロナ後を視野に入れた旅行需要の取り込みも目指し、新商品を提案している。清潔意識の高まりを受けたユニークな商品も登場している。ハタノ製作所(大阪府富田林市、波多野昇社長)は、浴槽の残り湯を使った次亜塩素酸による浴室全体と残り湯を除菌する「ジョーカー」を提案。担当者は「どこにもない商品」と意気込む。EC(電子商取引)のみでアウトドアグッズなどを販売してきた輝楽(奈良県香芝市、北村幸啓社長)も初出展。プライバシーを確保できる災害避難時用テントや、キャンプ場などでサウナを楽しめるテント式サウナなど特徴的な商品をそろえ、今後、リアル店舗での販路開拓にも力を入れる考えを示している。

また、1日3回30分にわたり、1社当たり3分の商品説明動画を会場の一角で撮影。4カ所に設置した大型テレビで撮影した映像を視聴できるようにしているほか、見逃し配信も実施。今後の営業ツールとしても生かす取り組みも行っている。